

井戸 敏三 兵庫県知事様

石井登志朗 西宮市長様

## つと 津門川での自然回復を目指した河川改修のお願い

2019年7月2日

### 武庫川流域圏ネットワーク

代表 山本義和

〒665-0062 宝塚市仁川高台1丁目2-25-204

TEL 0798-31-1544

武庫川流域圏ネットワークは、安全・安心で、より魅力ある武庫川を求める市民活動を行っています。2017年には「環境保全功労者として兵庫県知事表彰」を受け、西宮市からは私共の活動が「環境学習都市にしのみやパートナーシッププログラム」として、認定されています。津門川は、西宮市の街中を流れる小河川ですが、市民に愛され、地域住民が熱心に環境保全活動に取り組み、兵庫県や西宮市も種々の支援を進めてこられたモデル河川です。

2018年12月5日、山陽新幹線六甲トンネル内での工事中に大量のモルタルを含んだ汚濁水が津門川に流入して、コイ、フナ、アユ、ナマズ、ウナギ、ボラ、ハゼなどの魚類が大量に死にました。武庫川流域圏ネットワークでは、事故発生直後に津門川近くに在住の武庫川流域圏ネットワーク会員からの通報をうけて、この問題に取り組み、今日に至っています。この間、現場の観察、関係者との対話、シンポジウム、フォーラム、FM ラジオ放送、武庫川流域圏ネットワークの活動報告会・総会・役員会などでもこの問題をとりあげてきました。

トンネル工事を行ったJR西日本と(株)大鉄工業は、行政や私達の要望を受け入れて、川底の汚濁物質の除去を丁寧に続けてこられ、この作業は3月に終了しました。

しかしながら、残念なことに、2003年に市民の要望に応じて阪急神戸線の北50m付近に西宮土木様が新設された魚道の上流では、魚影をほとんど見ることが出来ません。

今後は、「津門川の自然回復」が重要な課題です。2003年の生物調査結果では、20種の魚類の生息が確認されていました。私達は自然の回復力を活用して、少し時間は必要でしょうが、以前のように津門川に多種類の魚類や水生生物が戻ってくることを願っています。

自然の回復力に期待をしていますが、全く何もしないで、このまま放置してよいとは思っていません。私達は、「津門川に少しでも人の手を加えて、失われた自然の再生力を促進出来ないだろうか」と考えています。

**具体的な要望 1.河川内の水生植物育成地の改修と 2.魚道の一部改良は、次ページに記します。**

## 1. 水生植物育成地の改修

水生植物育成地は、川底に木杭を打って、平時の水面から 20 cm前後の高さの囲いをつくり、その中に土を入れて造られています。この場には環境に適応した植物が生い茂り、昆虫や野鳥が来るようになり、真夏には日陰が出来て、種々の生物が集まります。大雨による増水時には、津門川は急流になります。この急流から逃げ場を失った魚類は、下流に流出しますが、水生植物育成地がシェルターとなって流出を防いでいます。この水生植物育成地は、生物多様性の高い国道 171 号線から魚道との間に 20 数カ所ほど新設されました。

その後、16 年を経過して傷みがひどくなり、一部は流出し、壊れた状態で放置されており、景観上も好ましい姿ではありません。西宮土木様には適当な方法で、改修工事をお願いします。

既存の水生植物育成地のサイズ・形状・劣化状態などを参考として、新たな工法を適用していただければ、津門川の治水対策の障害にはならないと考えます。

## 2. 魚道の一部改良

津門川の大きな水源は武庫川であり、幾つかの支川もありますが、そこからの生物の供給はほとんど望めません。水のネットワークが切れているので、津門川での上下移動を可能にする魚道の重要性が高くなります。2003 年に新設された魚道によって、アユを始めとする水生動物が上流部まで遡上することが可能になり、流域の市民は喜んでいますが、現在の魚道はその役割を果たしてききましたが、少し改良工事を加えれば、魚道の効果が増大すると思われます。

魚道は 5 段の階段式で、最下段部の 1 段目と下の水面との間には距離があり、水深も浅いため、平時の水位では魚が水中で上向き体勢をとってジャンプし、1 段目まで上がりにくい構造です。1 段目がクリア出来れば、上段はプール状なので上流への遡上が可能と思われます。

魚道の底面と第 1 段目の間に、少し工夫をできないでしょうか。例えば、①適当な大きさの自然石をこの間に積み重ねる、②適度な斜度をもった構造物を地上で造って、それを据え付ける。このような方法で、水流を緩やかにする。多様な行動をする生物種への対応を考えた時には、1 段目の全面でなく、半面がよいかもしれません。これらの方法は、河川水を堰止めせず、工事が可能と思います。改修作業が必要な場合にも、比較的簡単です。

少しの工夫をすることによって、魚道 1 段目下の水流が緩やかになり、海産アユなどの魚類やエビ、カニなどの遡上や遡下を助けることが出来ないでしょうか。

津門川の自然再生の方法については、これ以外にも有効な技術があり、様々な検討課題もあると思われます。西宮土木様には、技術力を駆使して、河川改修作業の準備を進めていただき、6～10 月の増水期が終った頃から、工事を始めてくださることを願っています。

西宮市長様宛に、<sup>にしきた</sup>西<sup>にしきた</sup>北地域の津門川両岸に位置する自治会など 18 団体が、津門川改修の要望書を提出しておられます。また、<sup>にしきた</sup>西<sup>にしきた</sup>北の左岸には西宮市環境学習サポートセンター・ミニミニ水族館があり、津門川の魚を集めて展示され、津門川の魚類に詳しい職員もおられますので、川の生物観察を通じて、津門川の自然再生にご協力が得られると思っています。

以上